

「開拓魂」

愛媛県西予市大野ヶ原開拓

愛媛県と高知県との堺にある四国カルスト（注）は、日本三大カルストの一つ（他に山口県の秋吉台、福岡県の平尾台）。標高は1100～1400^{メートル}と最も高い。東西約25^{キロメートル}で、最西端の高原に西予市大野ヶ原開拓地がある。

注：石灰岩が雨水や地下水などで溶けてできた地形。

46（昭和21）年、愛媛開拓増産隊15名が未開の原野に入り、入植を試みたのが始まり。49年、大野ヶ原開拓農協設立。50年に国から開拓地として認可され、同年から63年まで入植が続いた。だが、高冷地で冷害や台風被害などが多く、厳しい自然条件だった。石灰岩が地表に露出し、土壌は強酸性で作物が思うように育たなかった。そのため、多数の離農者が出た。

同農協は、冷涼でも栽培が比較的容易な牧草地とする計画を立て、酪農経営への移行をめざした。59年から乳牛が導入され始めた。以降、徐々ながら草地を基盤とした高原酪農が軌道に乗っていった。

現在、県内でも有数の酪農地帯となっている。素晴らしい景観に加え、牛乳・乳製品の店などもあり、観光客が多く訪れる。

開拓地を見守るように記念碑がある。77年の建立。力強い筆勢で「開拓魂」と刻まれている。下方の碑文には開拓の沿革が記してあり、中頃に「幾多の障害を克服し かつての熊笹の眩野は栄養豊かな牧野と化し 放牧牛の群れが長閑に草を喰む さながら絵の如き大規模近代農業の基盤確立の偉業を成せり これ一偏に不撓不屈開拓魂の精華」とある。

○ 愛媛県 西予市 大野ヶ原開拓地区

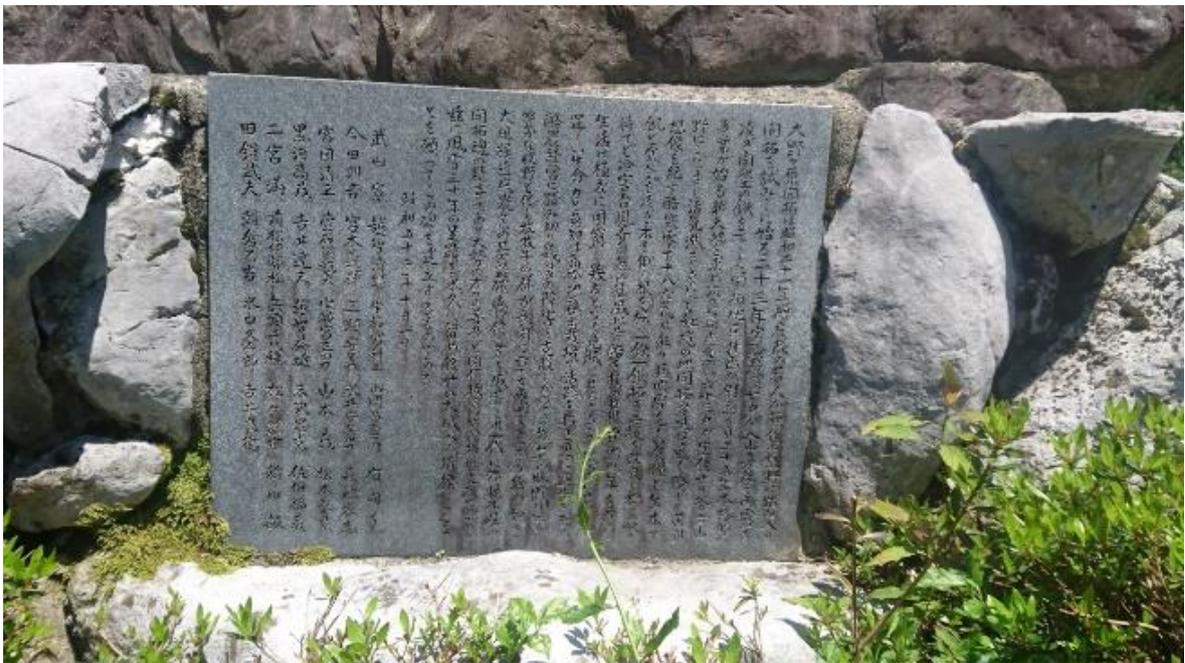
「開拓魂」 昭和52年10月1日

※四国カルスト山頂に近い開拓地（位置関係は写真のとおり）。戦後、72戸が入植、現在19戸（JAに加入）。この集落には「もみの木」「みるく園」などの店があり、当日も数名の観光客が訪れていた。国道440号から県道36号を通り同地区へ入る。

（開拓碑）



(前面の下方に刻まれた碑文)



(大野ヶ原周辺図)

(酪農集落)



(碑文)

大野ヶ原開拓は昭和二十一年増産隊の若人が無住の原野に踏み入り開拓を試みしに始る 二十二年実験農家七戸が入山 茅屋で雨露を凌ぎ開墾の鋤を下した 開拓地区計画が樹立され二十五年本格的に事業が始まる 新天地を求め次々に同志集い六十三戸が定住せり 斧音山野にこだまし活気漲る されど秘境の地の開拓の道は遠く険しく 苦難想像を絶する酷寒零下十八度荒れ狂う猛吹雪 乏しい食糧生木で飢えと寒気を凌ぎ 木を倒し根を掘り一畝一畝拓き土壌を改良し 稔りの秋を待てど 冷害台風等自然の 猛威は苛酷を極め 収穫皆無の年を重む 生活は極度に困窮し 幾度となく危機にさらされる この試練に屈せず逞しい生命力と英知は高冷地蔬菜栽培で活路を拓き 更に進歩を求め酪農経営に踏み切り 幾多の障害を克服し かつての熊笹の曠野は栄養豊かな牧野と化し 放牧牛の群れが長閑に草を喰む さながら絵の如き 大規模近代農業の基盤確立の偉業を成せり これ一偏に不撓不屈開拓魂の精華であり 大勢の方々の善意と関係機関の篤い指導支援の賜である

茲に風雪三十年の足蹟を永久に留め後世の大成への指標たらんことを願って此の碑を建立するものである

昭和五十二年十月一日

関係者名 (二九名 略)